

# ハバククク書

## 第一章

一 預言者ハバククが示を蒙りし預言の重負

二 エホバよ我呼はるに汝の我に聽たまはざること何時までぞや我なんぢにむかひて強暴を訴ふ

三 れども汝は助けたまはざるなり 汝なにとて我に害惡を見せたまふや何とて艱難を瞻望居たまふや奪掠および

四 強暴わが前に行はる且爭論あり鬭諍おこる 是によりて律法弛み公義正しく行はれず惡き者義しき者を圍むが

故に公義曲りて行はる

五 汝ら國々の民の中を望み觀おどろけ駭け汝らの日に我一の事を爲ん之を告る者あるとも汝ら信ぜざらん

六 視よ我カルデヤ人を興さんとす是すなはち猛くまた荒き國人にして地を縦横に行めぐり己の有ならざる住處を

七 奪ふ者なり 是は懼るべく又驚くべし其是非威光は己より出づ 八 その馬は豹よりも迅く夜求食する豺狼よりも

疾し其騎兵は跑まはる即ちその騎兵は遠き處より來る其飛ことは物を食はんと急ぐ驚のごとし 九 是は全く強暴

一〇 のために來り其面を前にむけて頻に進むその俘虜を寄集むることは砂のごとし 一〇 是は王等を侮り君等を笑ひ諸

一 一の城々を笑ひ土を積あげてこれを取ん 斯て風のごとくに行めぐり進みわたりて罪を獲ん是は己の力を神とす

二 エホバわが神わが聖者よ汝は永遠より在すに非ずや我らは死なじエホバよ汝は是を審判のために設けたま

三 へり譬よ汝は是を懲戒のために立たまへり 汝は目清くして肯て惡を觀たまはざる者肯て不義を視たまはざる

者なるに何ゆる邪曲の者を觀すて置たまふや惡き者の己にまさりて義しき者を吞噬ふに何ゆる汝黙し居たまふや

イ哀三・八 八卷二九・一四 徒 耶五・一五 代下 へ耶四・一三 二 哀五・一九 結三〇 爾詩五・五  
 伯二一・七 詩九四 一三・四一 三六・六 ト但五・四 一七・二三 賽一〇 又申三三・四 耶一・二一  
 三 耶一・二一 二申二八・四九、五〇 ホ耶五・六 番三・三 チ詩九〇・二、九三 一七・二三 賽一〇 又申三三・四 耶一・二一

ワ耶一六・一六 歴四 一三、三七・二四、夕詩八五・八 二七、三五 一七加三・一一 來 一六  
二二 二五 二八・二、三〇・八 ツ來一〇・三七 一〇・三八 米二・四  
カ申八・一七 賽一〇 日賽二一・八、一一 ソ但一〇・一四、一一 ネ約三・三六 羅一 十號二七・二〇、三〇 ム賽三三・一  
ウ哈二・一七 中耶二二・一三 中耶四九・一六 阿四

一四 汝は人をして海の魚のごとくならしめ君あらぬ昆蟲のごとくならしめたまふ 一五 彼鉤をもて之を盡く釣あげ

一六 網をもて之を寄せ集め引網をもて之を捕ふるなり是に因て彼歡び樂しむ 一六 是故に彼その網に犠牲を獻げその

一七 引網に香を焚く其は之がためにその分肥まさりその食饒になりたればなり 一七 然ど彼はその網を傾けつゝなほ

たえず國々の人を惜みなく殺すことをするならんか

### 第二章

一 我わが觀望所に立ち成樓に身を置ん而して我候ひ望みて其われに何と宣まふかを見わが訴言に我

二 みづから何と答ふべきかを見ん 二 エホバわれに答へて言たまはく此默示を書しるして之を板の上

三 に明白に鐫つけ奔りながらも之を讀べからしめよ 三 此默示はなほ定まれる時を俟てその終を急ぐなり偽ならず

四 若し遅くあらば待べし必ず臨むべし濡滞りはせじ 四 視よ彼の心は高ぶりその中にありて直からず然ど義き者はその信仰によりて活べし 五 かの酒に耽る者は

五 邪曲なる者なり驕傲者にして安んぜず彼はその情慾を陰府のごとくに潤くすまた彼は死のごとし又足ことを知す

六 萬國を集へて己に歸せしめ萬民を聚めて己に就しむ 六 其等の民みな諺語をもて彼を評し嘲弄の詩歌をもて彼を

七 諷せざらんや即ち言ん己に屬せざる物を積累ぬる者は禍なるかな斯て何の時にまでおよばんや嗟かの質物の重荷

八 汝を嚙む者にはかに興らざらんや汝を惱ます者醒出ざらんや汝は之に掠めらるべし 八 汝

九 衆多の國民を掠めしに因てその諸の民の遺れる者なんぢを掠めん是人の血を流しゝに因るまた強暴を地上に行ひ

一〇 災禍の手を免れんがために高き處に巢を構へんとして己の家に不義の利を取る者は禍なるかな 一〇 汝は

二 事を圖りて己の家に恥辱を來らせ衆多の民を滅して自ら罪を取れり 石垣の石叫び建物の梁これに應へん

二三 血をもて邑を建て悪をもて城を築く者は禍なるかな 諸の民は火のために勞し諸の國人は虚空事

二四 のために疲る是は萬軍のエホバより出る者ならずや エホバの榮光を認むるの知識地上に充て宛然海を水の掩

二五 ふが如くならん 人に酒を飲せ己の忿怒を酌和へて之を酔せ而して之が陰所を見んとする者は禍なるかな 汝は榮譽

二六 人に酒を飲せ己の忿怒を酌和へて之を酔せ而して之が陰所を見んとする者は禍なるかな 汝は榮譽

二七 吐て榮耀を掩はん 汝がレバノンに爲たる強暴と獸を懼れしめしその殲滅とは汝の上に乗るべし是人の

二八 血を流しに因りまた強暴を地上に行ひて邑とその内に住る一切の者とに及ぼしに因るなり

二九 雕像はその作者これを刻みたりとて何の益あらんや又鑄像および偽師は語はぬ偶像なればその像の作者こ

三〇 ねを作りて頼むとも何の益あらんや 木にむかひて興ませと言ひ語はぬ石にむかひて起たまへと云ふ者は禍

三〇 なるかな是はに教誨を爲んや視よ是は金銀を着せたる者にてその中には全く氣息なし 然りといへどもエホバ

はその聖殿に在ますぞかし全地その御前に黙すべし

第三章

一 シギヨノテに合せて歌へる預言者ハバククの祈禱 エホバよ我なんぢの宣ふ所を聞て懼る エホ

二 バよこの諸の年の中間に汝の運動を活潑かせたまへ 此諸の年の間にこれを顯現したまへ 怒る時に

三 も憐憫を忘れ給はざれ 神テマンより來り聖者バラン山より臨みたまふ セラ 其榮光諸天を蔽ひ 其讚美世界

四 に徧ねし その朗耀は日のごとく光線その手より出づ 彼處はその權能の隠るゝ所なり 疫病その前に先だち

イ耶二三・一三 結 口耶五一・五八 ホ創九・二二 卜哈二・八 一〇・二二 一三・二二 一四・二二 一五・二二 一六・二二 一七・二二 一八・二二 一九・二二 二〇・二二 二一・二二 二二・二二 二三・二二 二四・二二 二五・二二 二六・二二 二七・二二 二八・二二 二九・二二 三〇・二二 三一・二二 三二・二二 三三・二二 三四・二二 三五・二二 三六・二二 三七・二二 三八・二二 三九・二二 四〇・二二 四一・二二 四二・二二 四三・二二 四四・二二 四五・二二 四六・二二 四七・二二 四八・二二 四九・二二 五〇・二二 五一・二二 五二・二二 五三・二二 五四・二二 五五・二二 五六・二二 五七・二二 五八・二二 五九・二二 六〇・二二 六一・二二 六二・二二 六三・二二 六四・二二 六五・二二 六六・二二 六七・二二 六八・二二 六九・二二 七〇・二二 七一・二二 七二・二二 七三・二二 七四・二二 七五・二二 七六・二二 七七・二二 七八・二二 七九・二二 八〇・二二 八一・二二 八二・二二 八三・二二 八四・二二 八五・二二 八六・二二 八七・二二 八八・二二 八九・二二 九〇・二二 九一・二二 九二・二二 九三・二二 九四・二二 九五・二二 九六・二二 九七・二二 九八・二二 九九・二二 一〇〇・二二

